

菊池川流域の弥生時代集落遺跡と米づくり

日本遺産の構成文化財の中に、「菊池川流域の弥生時代の大集落遺跡群」があります。菊池市では弥生時代後期の小野崎遺跡、うてな遺跡がこれに該当します。

小野崎遺跡

小野崎遺跡は菊池川と菊池川の支流である合志川とに挟まれた台地上に立地します。遺跡近くの西側には合志川、遺跡の北東方向約500メートル離れた箇所には菊池川が流れています。これらの河川は侵入する外敵を防ぐ役目をしています。

この集落には環濠が巡っており、居住域と墓域とが分けられていると想定されます。居住域には多数の竪穴建物跡が確認されており、同じ場所建て替えています。多量の土器や石器、鏡などの青銅器が出土しており、中心的な集落跡と考えられます。朝鮮半島からの搬入品と考えられる銅釘が出土しています。

うてな遺跡

うてな遺跡は菊池川の支流である迫間川東側のうてな台地上

にあります。二重、三重に巡る環濠をもつ弥生時代後期の集落跡です。それ以外は古墳時代の木棺墓、中世の火葬墓・掘立建物・道路が確認されています。小野崎遺跡と同じように中心的な集落と考えられ、中国の新時代の貨幣、凝灰岩製の腰掛などの遺物が出土しています。

米作り

これらの遺跡では、稲の穂だけ刈る石包丁と呼ばれる収穫用の石器が出土しています。弥生時代の水田は確認されていませんが、米の収穫道具があるので、米作りを遺跡の近くで行っていたと考えられます。

左の写真は小野崎遺跡から出土した表面にすずがついたかめ形土器です。米や雑穀を炊いて雑炊のようにして食べていたと想像できます。さらに、甗が出土していることから、蒸す調理方法もあったと推定できます。



かめ形土器

菊池夢美術館情報

問い合わせ先 菊池夢美術館 ☎0968(23)1155

美術館企画展「癒しの里の手しごと展」
期間：11月1日(水)～19日(日)

陶器、古布人形、古布小物、ハーブ染、葛作品、布ぞうり、竹細工、編物、手芸小物、つまみ細工、エコ作品など17人の作家のほんのり暖かい手作り作品をお届けします。



「第13回夫婦の手紙・絵手紙展」
期間 11月22日(水)～

平成30年1月28日(日)
全国から募集した心温まる、愛情溢れた手紙54作品と絵手紙112作品を展示します。皆さんぜひお越しください。



過去の受賞作品

開館時間 午前9時～午後6時

※11月の閉館日はありません。

わいふ一番館だより

問い合わせ先 わいふ一番館 ☎0968(24)6630

【ギャラリー】
「続・九州の一本桜」展 梅野秀和

期間：～11月5日(日)
何十、何百の桜が咲き競う光景は見事ですが、一本だけでも、有名でなくても、心に残る桜があります。

「渓谷の四季」安永隆敏写真展
期間：11月7日(火)～26日(日)

熊本地震で菊池渓谷も被災し、1年半が過ぎました。早く復興されることを願って個展を続けていきます。

【まちかど資料館企画展】
「黒肥地コレクション展」

期間：～11月26日(日)
長年菊池の文教に尽くした渋江家や幕末の思想家横井小楠の書、細川藩家老の沢村大学ゆかりの掛け軸、刀剣など数十点を展示します。

開館時間 午前9時～午後5時

※休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）

人権・同和教育シリーズ

146

問い合わせ先 人権啓発課
☎0968(25)7209

水俣病は終わっていない

菊池市地域人権教育指導員 吉山義信

9月「水銀に関する水俣条約」が発効し、その第一回締約国会議がスイス・ジュネーブで行われました。水俣条約は、メチル水銀によって深刻な神経障害を引き起こした水俣病のような被害を二度とくり返さないため、熊本で2013年に採択されました。国連環境計画によると、水銀の不適切処理がアフリカや東南アジアで行われていて、先進国の支援が必要な状況にあります。この締約会議には日本から坂本しのぶさんや水俣市長、環境省親善大使の水俣高校2年の澤井さんの3人が出席し、「水俣への思いを捧げる時間」でのメッセージを伝えていきます。

坂本しのぶさんのスピーチです。「私は坂本しのぶです。水俣から来ました。お母さんのおなかの中で水俣病になりました。胎児性の水俣病です。私もみんなもどんどん悪くなっていきます。水俣病は終わっていません。たくさんの方が闘っています。言いたいことがあつて来ました。女の子どもを守ってください。水銀のことをちゃんと教えてください。ありがとうございます。」

水俣病公式確認から61年経ちました。しかし、今も多くの被害者が病に苦しみ、差別や偏見に傷つき裁判が続いている現実があります。また、工場から垂れ流された水銀が埋められているエコパークの耐久性も懸念されています。人も自然も課題は残されたままで水俣病はまだ解決していません。坂本さんは中学3年生の時にもスウェーデン・ストックホルムで開催された国連人間環境会議で、「水俣病は治らんけど、ひどくはなっていく。どこまで生きられるかわからんから、自分ができることを頑張っていきたい」と水銀被害を世界に向けて発信しています。「生命の尊厳」と向き合っている人々のメッセージだから世界の人々に伝わっているのではないのでしょうか。



熊本県人権同和教育政策課編「人権研修テキスト」より

菊池グリーンツーリズム

問い合わせ先 さくちふるさと水源交流館 ☎0968(27)0102

家庭料理大集合・食の文化祭

「行事食」と聞いて何を思い出しますか？冬至のかぼちゃ料理、正月のおせち…。節目ごとに収穫に感謝する料理を食べ、生活に変化とけじめをつけることに加え、御馳走を食べることで栄養を摂るという意味もあつたようです。行事食と同様、家庭料理にもその地域に根ざした食材や味付けがあります。経験と歴史に培われた「地域の味」を受け継ぎ、後の世代に伝えることは大切なことです。水源地域では、各地区から市内の食材を使った家庭料理を持ち寄り展示、試食し食について語り合いう「水源食の文化祭」を毎年開催しています。今年で14回目。皆さん、気軽にご参加ください。

とき 11月26日(日)
正午～午後2時
ところ さくちふるさと水源交流館
参加費 千円（小学生500円。未就学児は無料）
食の文化祭

韓国発見シリーズ ⑤ ほんにちは金です

「1千冊読書法1日1冊、3年間

ある女性会社員が毎日の読書を通してうつ病を克服して書いた「1千冊読書法」という本が今注目を集めている。

彼女は大学卒業後すぐ就職した職場で10年以上勤めたが、ある瞬間全てのエネルギーが体から抜けるのを感じた。真面目な彼女は、一人での育児の寂しさや学歴の劣等感、変化の無い人生の虚しさからうつ病になり、結果会社では厳しい上司、家では神経質な母親になった。

彼女は絶望の淵でもがいていた時、ある講演会で聞いた「2千冊の本を読めば頭が冴える」という言葉がきっかけで読書を始め、それが彼女の生活を少しずつ変えた。どうしても消えなかった心配が本を読む瞬間だけは頭の中から消えた。睡眠時間も少しずつ増え、食欲も戻ってきた。それで彼女は毎日1冊本を読むことにし、それを「1千冊読書法」と名付けた。

この本はうつ病にかかった著者が、毎日本を読みながら生きる意欲を取り戻し情熱的な人間に生まれ変わる体験談だ。彼女は100冊本を読むと心が安定し、300冊

冊目で人を憎む心が消え、500冊読んだ後は周囲の事に好奇心が蘇ったという。そして800冊読んだ時作家になりたいという夢を持ち、千冊読んだ時ついにその夢をかなえた。

彼女は「1千冊読書法は毎日1冊の本を読破するのではなく、毎日1ページであっても欠かさず本を読む事」と言う。

人生にスランプは付き物だ。重要なのはそれを乗り越えていく「暮らしの筋肉」を持つことだ。本は自分の弱れた自尊心を回復し無気力な日常に生気を吹き込む。新たな考えや見方を教えてくれ理解を深めてくれる。それは最も変え難い「自分」を変えられることができる。そして新たに生きて行くエネルギーという筋肉を得ることになる。

この著者は目が回るほど忙しい中でも1日3時間ずつ時間を確保して読書に投資した。毎日1冊の本を読みながらも仕事、家庭、社会生活とどれ一つ手を抜かない彼女の姿は我々も1千冊読書に成功できそうな自信を与えてくれる。